

道徳学習指導案（6年）

1 主題名 深い思いやり（内容項目2－(2) 思いやり）

2 資料名 「心のものさし（自作資料）」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高学年2－(2)「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」は、どう接することが相手のためになるかを考え、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする心をもった児童を育てる内容項目である。

児童がよい人間関係を築き、よりよく生きていくためには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは、具体的には温かく見守り、接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして現れることが期待される。特に学校においては、多様な人との直接的なかかわり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが大切である。

(2) ねらいにかかわる児童の実態 <省略>

(3) 資料について

本資料「心のものさし」は、自分の気持ちを優先するばかりに、親切にしたいという気持ちが行為として現れない場面を取り上げ、相手の立場に立った思いやりの大切さについて考えるために、自作した資料である。

主人公のみなみは、自分の言うことを聞いてくれない登校班の1年生の優太にいらだち、親切にしないといけないういながらも、強くあたってしまう。ふとしたことで優太が手をにぎってきたことをきっかけに、みなみは自分が1年生のときに、登校班の班長や他の上級生に親切にしてもらったことを思い出す。親切にできなかった自分と当時の班長を照らし合わせ、班長さんを「心のものさし」にするのだった。

この資料から、思いやりの意義を広げるために、思いやりの気持ちがだれにもありながらも、自分の都合でそれが行為として現れていないことが日常生活の中にあることを認めつつ、相手の立場を踏まえた思いやりの行為が大切であることに気付かせていきたい。

4 指導方針

- 児童が「心のものさし」を日常生活の様々な場面で行為として実践しやすく、多面的・客観的な見方や考え方が求められる「思いやり」を取り上げ、道徳的価値の大切さを自分の行為につなげていけるようにする。
- 主人公の「心のものさし」の変化についての話し合いを通して、行為の判断理由に着目させ、「相手のために」「みんなのために」という考えをもって相手と接することの大切さに気付かせていく。
- ロールレタリングを取り入れ、相手の立場を踏まえた思いやりのある行為について考えることで、今までの自分を見つめ直すとともに、これからの自分の在り方について多面的・客観的にとらえさせ、日常生活に生かせるようにする。

5 研究とのかかわり

本研究では、児童の道徳的判断力を高めるために、「心のものさし」を軸に据えた連続型道徳学習を行い、自作の読み物資料を活用して行為の判断理由を考えることが有効であることを明らかにする。

本時は、連続型道徳学習の第3時（「心のものさし」を日常生活に生かす）に当たり、自作の読み物資料の主人公の行為と日ごろの自分の行為と重ね合わせて、相手の立場を考えた思いやりのある行為について考えていく。ロールレタリングを取り入れ、相手の立場を踏まえた思いやりのある行為を具体的に考えることによって、児童が今までの自分やこれからの自分の在り方を行為の判断理由に着目してとらえ、行為を判断する見方や考え方が動機重視、客観的・多面的になったかどうかを検証する。

6 本時の展開 (3/3)

(1) **ねらい** 主人公の「心のものさし」の変化について話し合うことを通して、「相手のために」「みんなのために」という考えで相手と接することの大切さが分かり、相手の立場を考えて、だれに対しても親切にしようとする判断力を培う。

(2) **準備** 読み物資料、ワークシート、場面絵①②、第1時につくった「心のものさし」揭示物
道徳「心のものさし」学習ファイル

(3) **展開**

学習活動	時間	主な発問(・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○思いやりのある行為とはどんなことですか。できないときは、どんなときですか。 ・困っている人を助ける ・相手の気持ちを考える ・できるときもあるけど、できないときもある	○思いやりのある行為を経験をもとに想起し、児童の意識を「思いやり」に向かわせ価値への方向付けを行う。
2 資料を読み、主人公みなみの行為の判断理由を考える。	20分	○みなみの「心のものさし」が大きく変化した出来事はどんなことですか。 ・犬にほえられて優太が手をにぎってきた ・1年生のときのことを思い出した ○「心のものさし」が変化する前のみなみは思いやりがあると思いますか。なぜ、そのように思いますか。 《思いやりがない》 ・自分のことを優先 ・強く言う ・ため息 《思いやりがある》 ・親切にしたい ・優しく注意 ◎思わず手をにぎり返したみなみの「心のものさし」にはどんな考えがあったと思いますか。 ・もっと相手のことを考えなくてはいけない ・今までは自分の都合ばかりだった ・みんなの親切につながっていく	○主人の気持ちの変容の前後に視点を当て、思いやる気持ちがありながらも、自分の都合が先行し、なかなか行為に現せない人間の弱さに着目していく。 ○「同じ思いをしたことはありませんか」と主人公と児童の気持ちを重ね合わせる投げかけをして、児童に自分のこととしてとらえさせていく。 ○主人公の「心のものさし」の変化をとらえられるように、「自分のため」から「相手のため」、「みんなのため」と広がっていったことをおさえていく。
3 今までの自分を振り返る。	15分	○もし自分がみなみだったら、優太にどのような手紙を書きますか。 ○優太の立場になって、手紙の返事を書いてみましょう。	○ロールレタリングを取り入れ、今までの自分の行為やこれからの自分の在り方を客観的に考えられるようにする。
4 本時を振り返って、感想を記述・発表する。	5分	○思いやりについて振り返り、大切だと思ったことを書きましょう。 ・自分のことばかり優先するのではなく、目の前で困っている人のことを考えるのは、とても大切だと思いました。これからは常に「心のものさし」の高い部分を意識して、ふだんの生活を送りたいです。	○振り返りの時間をとり、児童の見方や考え方の変化をとらえられるようにする。

(5) 板書計画

場面絵②

- ・もっと相手のことを考えなくてはいけないと思った
- ・今まで自分の都合ばかりだった
- ・みんなの親切につながっていく

「いい加減にして!」

- ・勝手なことをしないで
- ・私の言うことを聞いて
- ・みんなに迷惑をかけているのを分かって

場面絵①

- ・思いやりがない
- ・自分のことを優先
- ・強く言う
- ・ため息づく
- ・思いやりがある
- ・親切にしたい
- ・優しく注意

深いため息

思いやりがない
自分のことを優先
強く言う
ため息づく
思いやりがある
親切にしたい
優しく注意

思いやりとは?

主人公 みなみ

- ・人を助けてあげる
- ・できない時もある
- ・はずかしくて
- ・だれかがやってくれる
- ・自分のことで手いっぱい
- ・めんどくさい

思いやりのある行い